

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【小学校】

【学校名等】

学校名		井手町立井手小学校						校長名	鐘築 栄滋
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	1 7 8 名
学級数	2 5	2 9	2 5	2 9	2 4	3 5	1 1		
事業担当教員名		金澤 弘樹							
① 中学校区で目指す子ども像		「地域とつながる力」、「変化する社会を生きぬく力」、「人権を大切にする行動力」、「たくましく豊かな人間力」 これらの力を使い、未来のまちづくりを担っていく子ども							
② 目指す子ども像		＜学校教育目標＞「よく考え、健康で、仲間を大切にする児童」 ＜研究で目指す児童＞「主体的に学び、考え判断し行動できる児童」 【目指す児童までの道筋】 Step 1 目的に応じて文章や図、表などから必要な情報を読み取ることができる。 Step 2 目的に応じて読み取ったことを整理・分析することができる。 Step 3 相手や目的に合わせて伝えたり、まとめたりすることができる。 Step 4 相手や目的に合わせて、読み取り、整理・分析・まとめる・伝える過程を計画的に考えて取り組むことができる。							
③ 目指す子ども像に対する現状と課題		令和３年度より「主体的に学び、思考したことを表現できる児童の育成」を目指して単元構想と学習過程に焦点を当て研究を進めてきた。その結果、３step（見つける・つなげる・まとめる・伝える）を活用し、授業づくりすることで「情報を読み取る力」「整理分析する力」「表現する力」を育てることができるとわかった。昨年度の全国学力・学習状況調査（６年）においては、国語、算数ともに京都府・全国平均を大きく上回った。（国語…府+4.0P/全国+6.8P、算数…府+7.0P/全国+9.5P）京都府学力・学習状況調査（４～６年）においても、児童個々の学力の伸びが随所に見られた。年度末に行う標準学力調査においても、それぞれの学年の学力の伸長が見られた。しかし、学習に課題がある児童はまだまだ在籍している点は大きな課題である。（全国平均正答率 1/2 以下…国語 3％・算数 6％）また、子どもたちが自ら課題を見つけた、調べ方やまとめ方を選択したりするなど主体的に取り組む面においてはまだまだ不十分である。 よって今年度は、これまで培ってきた授業づくり、井手小学校として大切にしてきた人権教育を基盤とした教育活動をより継続させるだけでなく、発展させていく。また、めまぐるしく変化する社会で持続可能な社会の創り手を育成することが求められるようになってきたように、主体的に学び、考え判断し行動できる児童を育成することが大切にしていく。							
④ 目指す子ども像に達するための仮説		学び合いのある集団づくりや子どもの主体性が発揮できる取組（授業）を行うことによって自ら学び考え・行動できる児童を育成できるのではないかと。							

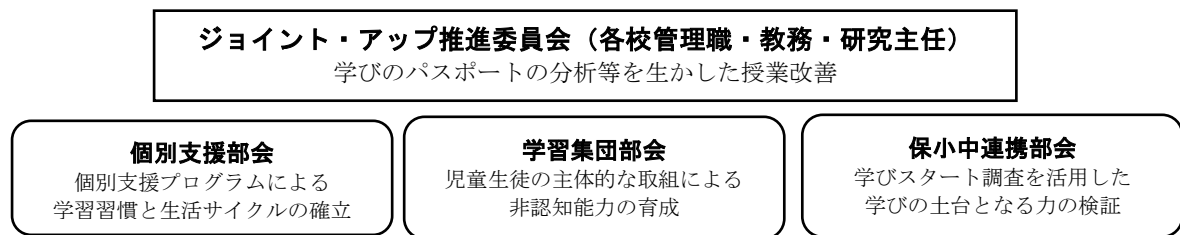
令和6年5月1日現在

【1 研究主題】

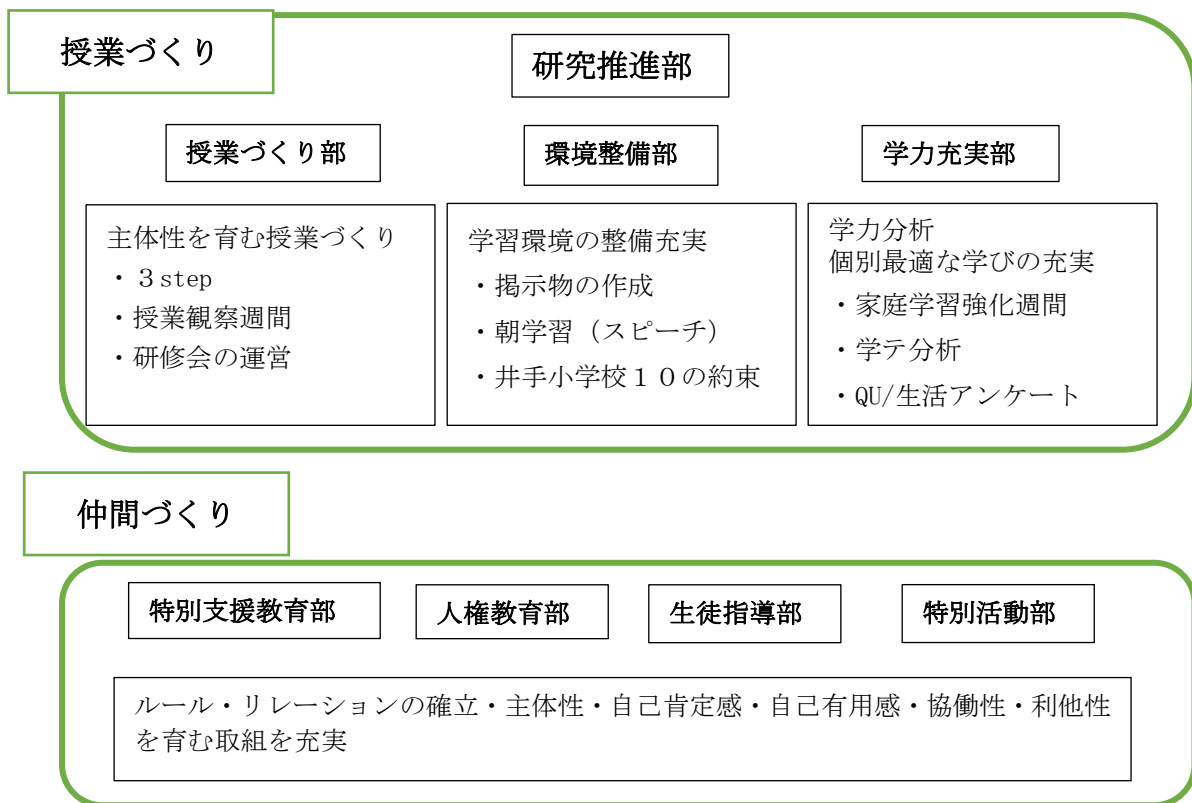
主体的に生き抜く力を育成する ～子どもの主体性を育む取組を通して～

【2 研究組織体制】

(1) 中学校ブロックの組織体制



(2) 校内の組織体制



【3 研究計画・具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	方針や取組の共有 校内研修会①「いじめについて」
5 月	JU授業研究会（中学校ブロックでの授業研究会）
6 月	授業参観週間（教員間で授業参観を行う） 校内研修会②「昨年度の標準学力調査について」 校内研修会③「研究で目指す児童の共有・授業づくりについて」「人権」
7 月	校内研修会④「2学期研究授業の指導案検討」「特支」「人権」 校内研修会⑤「JU研究会の指導案検討」「生徒指導」 「QU・全国学力学習状況調査の分析」 JU夏季研修会（泉ヶ丘中学校）
8 月	8月上旬＊学びのパスポート結果返却、第1回分析・活用研修会
9 月	研究授業・校内研修会⑥「研究授業の振り返り」「学びのパスポート分析」
10 月	校内研修会⑦「人権学習研究授業の指導案検討」「人権」 10月上旬＊第2回分析・活用研修会
11 月	JU授業研究会（井手小学校） 授業参観週間（教員間で授業参観を行う） 人権学習研究授業・校内研修会⑧「研究授業の振り返り」

12月	
1月	*研究校交流会（予定）JU授業研究会（多賀小学校） 校内研修会⑨「研究授業の指導案検討」
2月	研究授業・校内研修会⑩「研究授業の振り返り」「人権」
3月	校内研修⑪「人権レポートの交流」「Q U・標準学力調査の分析」

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全	3 1	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
全	4 5	自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。	思考の柔軟性	
全	4 8	難しいことでもあきらめなければ乗り越えることができる。	目標に向けて取り組む姿勢	
全	7 2	学習するときには、教科書以外にも、辞書・図鑑・参考書・プリントなどいろいろなものを参考にして情報を集めている。	精緻化	

* 5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

<u>個に応じた具体的な指導・支援方法</u> A…ペア学習時、自分の意見を相手に理解してもらう伝え方を教える。また、ペア学習の有用性を感じられるように課題設定する。相手が分からないところを引き出すように促し、自分の意見を伝えたり、考えを深めたりする場面をつくる。他者と学ぶことの意義を感じさせる。 B…頑張っていることを認めながら意欲を落とさないように声掛けしていく。 C…家庭背景に困難さを抱える児童であるため、家庭とのつながりを大切にして学力の向上を図る。 D…本人のがんばりを認める。他の児童のよい事例などを紹介し、それを取り入れてさらに自分の考えを深めている児童を取り上げて褒めることで、人の話を肯定的・共感的に聞けるようにする。 E…目標に向けて取り組む姿勢が高いうちに自信をつけさせたい。学び方をていねいに教えることを意識し、少しでも「できた・分かった」の充実感や達成感を感じさせ、今後も肯定的な姿勢を継続できるようにさせる。 F…本人の計画を担当が聞くことによって計画の実施ができるのか、見通しを持たせる。対話することで考えを整理させる。責任感を持たせる仕事を経験させ、成功体験につなげる。 G…基礎学力の定着を保障して、やればできるという経験を積み重ねることで学習意欲を持続させる。 H…発展（初見）問題を授業の中で取り上げる。探究的な学習ができるように単元構想を練る。自己判断できる機会をつくる。 I…継続して支援できるようにする。本人の強みを活かした学習方法や反復学習を取り入れる。
--

集団としての具体的な指導・支援方法

- ・ 教師自身が他教科や生活とつなげるという意識を持つ。教科指導でも生活、実社会で生かせる力を身に付けさせるという意識や授業づくりを行う。あきらめがちな児童も多いことから、児童自ら取り組みたいと思えるような主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりをする。
- ・ 一斉指導で基礎基本の徹底を図り、個を支援することで全体的な学力の底上げを目指す。一方で様々なニーズや課題を持つ児童に対応できるような環境を整え個別最適な学びを進めたり、協働的な学びによって高めたりできるようにする。
- ・ 学級の実態を見て単元や時間ごとにどの層に焦点を当てて学習を進めていくのか、探究的な学びや反復練習を取り入れるのかなどを考える。

【8 仮説の修正】

☆今年度より研究主題を設定したため、年度末に修正が必要か評価する。

【9 具体的な取組内容の修正】

☆今年度より研究主題を設定したため、年度末に修正が必要か評価する。

【10 児童の変容（普段の様子から）】

学校全体

- 学校で行っているQ Uアンケートでは、5月の調査に比べて、12月の調査の方が学級生活満足群の割合が増加していた。どの学級も問題事象が減少し、自分たちで解決しようとする場面が多く見られるようになった。
- 学習については、学校全体で主体性を育む上で個別最適な学びを充実させることが大切であると共通確認することができ、授業で大切にしたいことについても共有できた。
 - ①目的に合わせて「情報を読み取るスキル」「情報を整理・分析するスキル」「伝えたり・まとめたりするスキル」を系統的に学年ごとに積み上げていく。
 - ②学習課題を設定したり、学習計画を立てたりして学ぶ過程を意識できるようにする。
 - ③目的に合わせて、学習道具、学習方法（調べ方、整理・分析の仕方、まとめ方、伝え方等）、学習形態、学習時間などを自分で選択させる。
 - ④「主体性（思い）を引き出す工夫」「主体性を発揮できる場面を創る」「自己調整することができる環境や機会をつくる」こと
- 主体性を伸ばす取組の中で、学習を自分事として捉え、進んで取り組む児童が多くなったように感じる。また、自分で学習方法を選択する姿は、これまでと違い自分で調整しながら学習することを楽しんでいるように感じる。さらに、自主学習の習慣化・生活習慣の改善をねらった家庭学習強化週間の取組では、低学年で、自分の苦手な部分を克服するために繰り返し漢字練習をしている姿が見られるようになった。また、中学年では、自分の興味関心に合わせて調べ学習に取り組んだり、高学年では、自分の学習時間を調整して計画的に取り組んだりする姿が見られるようになった。主体性を伸ばす取組は児童の学ぶ姿勢を変化させているように感じる。

各学年の様子

【4年】

児童自ら取り組みたいと思えるような主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりをするために土台となる学級づくりに力を入れて取り組んだ。特に学級会では、子どもたち一人一人の「話したい。」という思いを大切にしながら取り組んだことで、教科学習においても、発言する児童が多くなり、話し合いが活発になった。また、林間学習の係活動では、自分たちで計画、司会を立て話し合い、林間学習を運営できたことで達成感を感じ自信となった様子であった。こうした取組で安心できる集団ができ、学習に安心し、集中して取り組むことができている。

【5年】

一斉授業の中で、自分に合った学習方法が選択できるように選択肢を与えるなど、課題がある児童に焦点を当てた授業づくりを行った。一人では、分からない児童も「友だちとやればできる。」というような児童が孤立しないような環境をつくった。友だちと相談する児童もいれば、自分のペースで学習する児童もいるという学習環境が、学習の質を上げることにつながっているように感じる。特に途中であきらめる児童がいなくなったことが大きい。

【6年】

単元や時間ごとに探究的な学びを取り入れたり、反復練習で基礎・基本を徹底したりした。中でも目的に合わせて、学習道具、学習方法（調べ方、整理・分析の仕方、まとめ方、伝え方等）、学習形態、学習時間などを自分で選択させたことは子どもを大きくかえるきっかけとなった。子どもたちの自己調整する姿が様々な場面で見られた。友だちに聞く児童、教科書や資料集で調べる児童、インターネットで調べる児童、表にまとめる児童、図を使ってまとめる児童、タブレットを使う児童、ノートを使う児童等自分に合った学習方法を選択することで一人一人の良さが出せるようになった。また、その良さを学級全体で共有したことさらに学び方を深めることができ、違う場面で活用する姿が見られた。

【11 2年次の研究構想】

【令和7年度研究主題】

「主体的に生き抜く力を育成する ～子どもの主体性を育む取組を通して～」

【目指す子ども像】

<学校教育目標>「よく考え、健康で、仲間を大切にする児童」

<研究で目指す児童>「主体的に学び、考え判断し行動できる児童」

【目指す児童までの道筋】

Step1 目的に応じて文章や図、表などから必要な情報を読み取ることができる。

Step2 目的に応じて読み取ったことを整理・分析することができる。

Step3 相手や目的に合わせて伝えたり、まとめたりすることができる。

Step4 相手や目的に合わせて、読み取り、整理・分析・まとめる・伝える過程を計画的に考えて取り組むことができる。

【仮説】

学び合いのある集団づくりや子どもの主体性が発揮できる取組（授業）を行うことによって自ら学び考え・行動できる児童を育成できるのではないかと。

【改善点】

① 校内研修の充実

モデル授業を実施し、学校として授業をつくるに当たって大切にしたいことを共有化し、子どもたちの力を確実に積み上げていきたい。また、教職員についても一人一つの研修を主催することで教職員の主体性と実践的スキルを向上させていく。

② ICT利活用の充実

校内研修で教員が子どもに使わせたいアプリ等を積極的に使い、教員の情報活用能力を高める。また、子どもたちの体験活動（自然体験活動・校外学習等）を充実させることでまとめたり、調べたりすることの必然性をつくり、主体的にICTを利活用できるようにする。

③ 探究的な学習の充実

5年生の総合的な学習の時間では、「食品ロス」をテーマに1年間探究的に学習に取り組んでいく。その際、大学や高校と連携することで、より質を高めていく。また、6年生は、「夢実現プロジェクト」といった学習で、地域のゲストティーチャーを活用し、話を聞いたり、インタビューしたりして職業調べを行う。そしてそれをきっかけに自分の夢を叶えるためにはどうすればいいか探究的に学習できるようにする等、探究的な学習を総合的な学習の時間を中心に充実させることで、学習の個性化も図りたい。

④ 「情報を読み取るスキル」「情報を整理・分析するスキル」「伝えたり・まとめたりするスキル」といった積み上げたいスキルを学年ごとに明らかにする。

各学年で重点的に指導しなければならないことは何か明確にすることで教員が意識できるようにする。

⑤ PDCAサイクルの確立

全ての教員が学びのパスポート及び各種客観テストやアンケートを活用し、実践に生かしていけるシステムを構築する。そのために「いつ」「だれが」「どうするか」を明確にする。